

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： マルチモダリティ創薬を拓くインフォマティクス基盤
2. 研究代表者： 大上 雅史（東京科学大学 情報理工学院 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本研究課題は薬のタネとなり得るさまざまな分子の種類（モダリティ）を、統一的な情報技術・手法によって扱うためのインフォマティクス基盤の実現に挑戦するものである。

フェーズ1では当初の目標であった核酸での取り組みは必ずしもうまく行っていない一方、抗体などにおいて顕著な成果を得て適切な軌道修正ができていると判断する。計画に従って順調に成果が出ており、医学部、薬品会社とも連携が広がっている。

フェーズ2ではフェーズ1の4項目を継続する計画であり、適切である。機械学習の技術を利用した抗体医薬の課題に取り組む計画は、マイルストーンの設定を含めて具体的である。複数のアカデミア、民間企業との研究連携、産学連携体制を整えており、様々な分野の研究者と融合研究をすることで更なる研究の発展を図ることを期待する。

以上